

# 釜石市立鶴住居小学校

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)  
北林 雅洋(香川大学教育学部)

## 【文献】

- (1) 片田敏孝『命を守る教育』PHP研究所 2012年
- (2) 毎日新聞「震災検証」取材班「検証「大地震」伝えなければならないこと」毎日新聞社、2012年2月

## 【場所】

大槌湾から800mの位置に釜石東中学校と隣合わせに建つ学校で、脇には鶴住居川が流れている。

住所:岩手県釜石市鶴住居町第1 8地割5

※現在校舎は取り壊され、別の場所でも再開している。



赤い範囲:釜石市

赤い範囲:鶴住居町

緑の範囲:鶴住居小学校

## 【東日本大震災による被害】

津波により校舎が全壊。

## 【震災当日の様子】

地震が起きた時、学校は下校前で児童は全員学校にいた。耐震補強工事が済んだばかりで、また雪が降っていたこともあり、校舎3階への避難を開始したが、隣の釜石市立釜石東中学校の生徒が「津波だ！逃げるぞ！！」と呼びかけながら高台に避難する様子を見て、高台への避難に切り替えた。

中学生と共に学校から800mほど離れた場所にあるグループホーム「ごさいしょの里」に避難したが、津波の避難としては十分な高さではなく、ごさいしょの里のすぐそばの崖が崩れてきていたこともあり、さらに高台にある介護福祉施設に避難した。介護福祉施設に避難が完了する直後に津波が介護福祉施設のすぐ手前で止まった。その後、さらに高台にある石材店まで避難した(1)。

ごさいしょの里での避難中に保護者に引き渡された児童の内1人が津波によって亡くなった。



鶴住居川の堤防と鶴住居小学校の位置関係(2013/9/2撮影)

## 【調査して言えること】

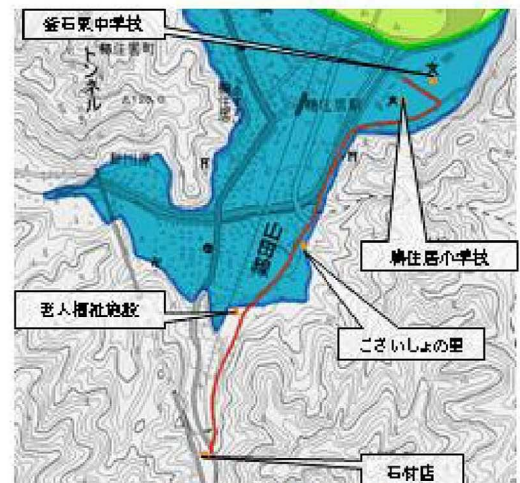
一次避難場所のごさいしょの里は学校から800mほど離れているが、標高は6mほどしかない。また、ごさいしょの里の手前の道路は1.5mほど標高が下がる箇所があり、津波の避難場所として安心できる場所ではない。また、二次避難場所の老人福祉施設は学校から約1kmの距離にあり、標高は13mほどで、ちょうど津波が到達した高さであった。最終避難場所となった石材店は、学校から1.6kmほど離れており、標高は約44mあり、安全な避難場所としては、石材店が最も適している。しかし、学校から石材店までは大人の足で早歩きでも約18分かかかるので、津波が到達するまでに児童が避難するためには、実践的な避難訓練と学校周辺の地形の知識が必要である。



ごさいしょの里の崩れかかっていた崖(2013/9/2撮影)



鶴住居町(2013/9/3撮影)



学校周辺回および避難経路

- 赤:避難経路
- 緑:津波浸水予想域
- 青:東日本大震災による津波浸水域